

二、一般の情勢

福岡地方労働組合運動の主要なる本年中の傾向は大體上述の如きものであるが、更に全般に就ては之を思想的に産業別に地域別より組合の消長を觀察し、且つ労働組合運動中主として特殊狀況を擧げて昭和九年中の組合情勢を窺へば次の通である。

1、組合の消長と思慮的分野より見たる現勢

福岡地方に於ける昭和九年末現在労働組合数は各支部を合し八指六團體其の組合員數約壹萬三千人にして、前年同様引續き減少を示したのではあるが、其の原因主として組合職員の整理統一に依るものであつて、直ちに組合勢力の衰退なりとは斷ひ難く、寧ろ實質的には確實なる労働組合の發展なりと稱すべきである。即ち製鐵所内に於ける日鐵従業員組合や日本産業労働協進組合や或亦製糖労働小倉支部セメント労働

司支部等は何れも漸次其の勢力を擴大しつゝあるのである。而して福岡地方労働組合の大勢は、前述の如く右翼社會民主主義を奉ずる益社會民衆黨支持の團體が組織労働者の約八割を占め、其の主たる組合は福岡九州聯合労働會加盟團體たる製糖労働小倉支部、セメント労働門司支部、日本石炭坑夫組合、鉱業同労働組合、石油労働西戸崎支部等を始めとし、更に日鐵従業員組合、官業労働革正會、海員組合門司戸畑三池各支部、港灣従來員組合各支部、海員協會若松出張所等支部を合して五十五團體組合員數壹萬を超へ、日本労働組合會議九州地方協議會を組織し、各團體間の連絡統制に於て其の活動力に於て福岡地方労働運動の壓倒的勢力を形成してゐる。之れに次では其の組合員數に於て日本主義團體たる製鐵所に於ける日本産業労働協進組合にして、同じく日本主義を標榜